



ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和) のススメ！

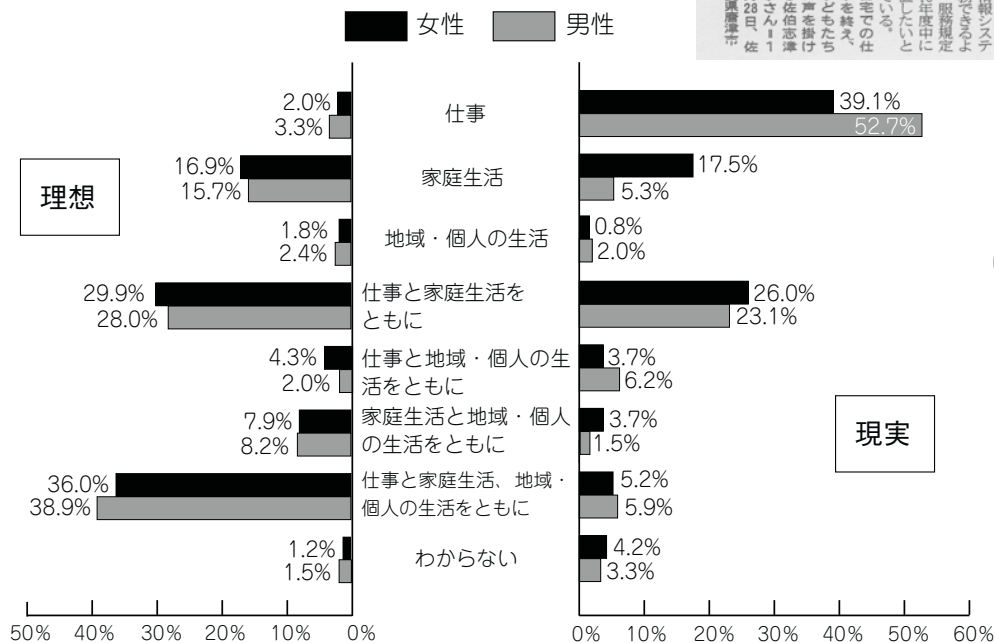
少子高齢化、人口減少など時代の大きな変化の中で、これまでの働き方では、個人だけでなく、社会全体や個々の企業・組織は持続できなくなると予想されています。そのため、仕事と生活の調和を図るワーク・ライフ・バランスの推進は重要な課題となっています。

ワーク・ライフ・バランスを推進することで目指す社会の姿は、一人ひとりが職場、家庭（子育て、介護等を含む）、地域社会などで責任を果たしながら、多様な活動に従事でき、自らの能力を十分に発揮して豊かさを実感できる社会のことであります。また、企業・組織が、働き手一人ひとりの価値観・必要性・希望を尊重した形で、多様な人材の能力を発揮させ、生産性を高めて活動する活力に満ちた社会のことであります。

毎日の生活を振り返り、仕事の充実と仕事以外の生活の充実を目指しましょう。



■仕事と家庭生活などの優先度 (理想と現実)



理想は仕事と家庭生活、地域・個人の生活をともにすることだけど、現実には仕事優先なんだよね



新たな取り組み「働き方最前線」

2010年(平成22年)2月15日 月曜日 (6)

お役所だって在宅勤務

「仕事も家庭も」願い切実

と、都通順で初めらる。08年に在宅勤務制度を試み、今年4月に本格実施する。今年4月に本格実施する。今年4月に本格実施する。

「働き方最前線」

県西部の唐津農林事務所勤務の佐伯志津子さん(39)は2人の子と、お勤め先でパソコンを操作し、インターネットで構内回線を利用して、現在1人の利用者がいる。佐伯さんは、県西部の唐津農林事務所勤務の佐伯志津子さん(39)は2人の子と、お勤め先でパソコンを操作し、インターネットで構内回線を利用して、現在1人の利用者がいる。佐伯さんは、県西部の唐津農林事務所勤務の佐伯志津子さん(39)は2人の子と、お勤め先でパソコンを操作し、インターネットで構内回線を利用して、現在1人の利用者がいる。

本県、サービス規定見直し検討

県西部は「こきり」人が参加し、総務部と合同で、大規模な在宅勤務の実験を、今年4月に実施する。今年4月に本格実施する。

県西部は「こきり」人が参加し、総務部と合同で、大規模な在宅勤務の実験を、今年4月に実施する。今年4月に本格実施する。

「青森県男女共同参画に関する意識調査報告書」より